

OB会報

湘南サッカー部 OB会報 第38号



平素はOB会の活動にご協力をいただき感謝申し上げます。

昨年のお会報でも、100周年記念事業につきまして、簡単にご案内致しましたが、より詳しく現状をご報告いたします。記念事業として考えているのは、従来通り「記念誌発行」「記念式典」「記念グッズ制作」です。
〔記念誌〕

48回生、OB会事務局長の関を中心に各世代から編集委員が集まりました。41回植松 41回相羽 48回中嶋 50回沢田 64回若木 71回西 82回篠塚 (敬称略) の8名で編集作業。一昨年春に第一回編集会議を開き、その後は数カ月に一度の会議と各部署の打ち合わせが適宜行われました。

発行は2021年8月予定。A5版変形、約300頁、2000部予定。

《内容》

・本文Ⅱ文筆家の41回生植松氏が、各時代の多くの資料をもとに「物語」として面白く、興味を惹く形で執筆。

・構成Ⅱ

第一章 1921～1936年頃

サッカー部創設からの苦勞

第二章 1936～1946年

関東の強豪校としての黄金時代から

国体全国優勝へ

第三章 1947～1960年

国体全国準優勝。日本代表としてOBの活躍。教員監督(宮原先生)の誕生。

第四章 1961～1989年

鈴木中先生の28年間

第五章 1984～1995年

藤塚先生初のOB教員監督。23年振り全国選手権大会出場 ベスト16。

第六章 1997～現在

清水先生、スペイン遠征を開始。小林先生・竹谷先生

第七章 OB会やペガサスの活動。湘南独自の現役とOBの絆。人物伝。

現在、第五章までは執筆完了。

・人物伝Ⅱサッカーや各方面で活躍

されたOBを紹介(湘南大樹参考)。

数名はインタビューをもとに「お話を書く。

・年表Ⅱ湘南サッカーの歴史、日本のサッカー、世相を表にする。

*各資料は関事務局長の多大な努力と各世代の協力で集められた。

写真は各章ごとに数点を入れる。

現在整理中であるが、第五章以降に掲載の写真は募集中。

〔記念式典〕
総会で式典委員を選出し、具体的検討・作業に入る。現在出ている案として「試合と記念パーティ」記念誌と記念グッズの配布。

開催日は「湘南高校100年」の式典(2021年秋)以降で検討。

例年行われている湘友会セミナー&還暦・古希の会、2020年は8月15日に予定(セミナー講師は清水先生)。2021年は藤塚先生の講演予定です。

「特別協賛金」につきましては昨年ご案内しましたが、引き続きのご協力をお願い致します。詳細は後方の1ページに記していますが、厳しい状況ですので重ねてお願い申し上げます。



特別寄稿

59回生のストーリー

全団体会場への夢をつなぐ

59回生 大沼 寧

我々の学年は、新人戦一回戦敗退の汚名を雪ぎ、17年ぶりの関東大会出場を果たしたチームです。また、インターハイ並びに高校選手権の県予選においては、県代表のチケットを手にするまでにあと一步届かず、ベスト4という結果に涙を飲んだ仲間でもあります。宿命のライバル鎌倉高校サッカー部との闘いを中心に当時を振り返ります。

チームがゾーンに入った日

春の関東大会県予選

スポーツ選手が、極度の集中状態にあり、他の思考や感情を忘れてしまふほど競技に没頭している状態にあるような、特殊な感覚体験を「ゾーン体験」と言います。

昭和58年春の関東大会県予選。その一回戦で我々は、まさにその「ゾーンに入った」感覚をチーム全体で体験しました。

「この日は、試合に出ている人も出ていない人も、ものすごく集中し

ていたように記憶しています。不思議と負ける気はしませんでした」
59回 若松

「確かにあの試合は勢いがあった。鎌倉を倒す」という明確な目標に集中できた」59回 近藤

湘南は、気迫あふれるプレーで鎌倉高校を圧倒し、試合終了間際に相手のオウンゴールを誘って先制。追加点は奪えなかったが、終始危なげのない内容で劇的勝利を遂げました。鎌倉高校は新人戦準優勝の強豪。そのチームを下し、新人戦一回戦敗退のマイナスイメージを覆した瞬間でした。その後は破竹の勢いで、負ける気配のない戦いぶり、準決勝へ進出。

関東大会出場をかけた日大(日吉)戦では、ポゼッションでは上回るも、0-0で両者譲らず。勝負の舞台は延長戦へ。そして後半、FW近藤の劇的なヘディングシュートで待望の得点を挙げました。

「日大戦は、卓(近藤)の珍しいヘディングも見られたけど、永原(60回)の足の指のまたが裂ける怪我が発生するなど、壮絶な印象。GK大久保(59回)のスーパースーブもあったなあ。負けるイメージが無かったな。」59回 倉橋

湘南は延長後半の貴重な一点を守り抜き、17年ぶりの関東大会出場権を獲得しました。



【サッカー、湘南一日大】延長戦後半3分、近藤のヘディングシュートが決まり両手を突きあげて喜ぶ湘南イレブン＝旭高グラウンドで

臥薪嘗胆

新人戦 初戦敗退

我々の学年は、技術の高いメンバーが揃い、入学時から期待された学年でした。

2年生の秋の新人戦では、上位進出の期待のもと、自分たちも自信をもって試合に臨みました。ところが、まさかの初戦敗退という憂き目に遭います。

内容では相手を圧倒するも得点には繋がらず、自分たちのミスによっ

て敗退。これにより翌春のシード権を失い、苦難を余儀なくされます。追い込まれた私達は、背水の陣を敷き、練習に臨むことになるのです。

「新人戦敗退後の1〜3月の練習は全員が悲壮感を持って練習したのではないのでしょうか?12分間走、最後のダッシュ10本やってからの中央階段登り降り、その後、練習後の筋トレ等々、随分と追い込んでいたように思います」若松

春先に関東大会の組み合わせ抽選会が行われ、抽選会から帰ってきたマネージャーが泣いています。対戦する相手が優勝候補の強豪、鎌倉高校になったというのです。

中学時代に全国大会に出場した大庭中学校出身のメンバーが、湘南と鎌倉高校に分かれていたため、お互いに意識し合う宿敵のサッカー部でした。

抽選結果を聞いたメンバーは落胆しましたが、不思議と、すぐに気持ち切り替わりました。冬の厳しいトレーニングを乗り越えた自信があったのだと思います。

「相手が鎌倉高校に決まると、みんなの集中力は、ますます高まったと思う」59回 上田

このような背景があつて、前述し

た鎌高戦での勝利につながったのです。
「全国優勝チームとの大きな差」
 17年ぶりの関東大会出場！

関東大会の1回戦は、優勝候補の帝京（東京代表 高校選手権の優勝校）でした。レギュラー数人が怪我で離脱し、即席のメンバーで臨んだ大舞台でした。開始早々に得点を決められて0-6で敗退。決定力の差をまざまざと見せつけられた試合でした。
 強化試合として静岡県代表の清水東（選手権 準優勝校）とも練習試合で対戦しましたが、同じような大差で負けました。体感した実力差に大きくショックをうけましたが、この2チームは、選手権の優勝・準優勝校となり、またのちにJリーグになり、日本代表になった選手を数人ずつ輩出するという全国でも突出した2チームだったのです。

「悪夢の逆転劇」

夏のインターハイ県予選！

関東大会で帝京に撃沈されましたが、神奈川県では負ける気はせず、インターハイの県代表になるつもりで大会に臨みました。インターハイ県予選はベスト4シードで、関東大会の県代表（湘南、相工大附属）と予選から勝ち上がった2校（鎌倉 横浜東）での総当たり戦による

代表決定方式でした。

宿敵の鎌倉高校との試合で、またドラマが起きました。この試合で勝ったチームが県代表に近づく試合でした。我々は、強豪校との試合を経験しチーム力も高まり鎌高に自信を持って臨みました。試合開始からポゼッションで相手を上回り、先制点を挙げ、さらに近藤のあざやかなロングシュートが決まり、2点リードでハーフタイムに突入しました。このハーフタイムで流れが変わってしまったのです。我々は、2点のリードしたことで、浮ついた雰囲気が出てしまいました。一方、のちに聞いた話としては、鎌高側では、コーチが涙ながらに選手を鼓舞していたそうです。その気持ちの差が、後半の内容に反映されました。早い段階で、鎌高に1点を返されると、瞬間にさらに2点をとられて、気付いた時には、終了のホイッスル。まさかの2-3の敗戦となりました。

この鎌高戦の敗戦が響いて、湘南は敗退。鎌高は、湘南戦の勝利が利いて、逆転でインターハイの県代表の切符をつかんだのです。

「なんとなく、だけど…鎌高に勝ちゃ行ける、負けたら行けないって感じ？中学から知っている奴ら

ばかりだったけど、彼らの「湘南」だけには負けない！という執念というか怨念を常に感じていた。うちのメンバーも、鎌高戦には何か特別な感情みたいなものを持ちながら戦っているような気がしたな。」
 近藤

「二兎追う者は、」

冬の高校選手権県予選！

我々の時代、選手権予選は夏までにベスト8が決まり、中断をはさんで11月から再開するスタイルでした。高3の秋の体育祭、受験勉強との両立があるため、当時の湘南サッカー部は、一部の選手を残して、大半が夏で引退していました。我々の学年は選手権出場の可能性もあり、夏に引退するかどうかは、各自、かなり悩んだと思います。部室で、残留か引退かを3年生みんなまで話し合ったことを今でも覚えています。結局、インターハイまでの16名のメンバーから6名（神崎、近藤、大沼、上田、田野岡、小野）が残留を表明しました。私は、関東大会で優秀選手に選出され、インターハイ予選・選手権の県予選とも好調だったので、秋の国体の県代表メンバーに選出されました。しかし、仲間が受験のために引退していく中でサッカー一色の生活



59回 メンバー

に入っていくのに抵抗を感じていたのと、秋の湘南行事である体育祭で組の総務長を務めることになっていたのも大きなブレーキとなり、国体メンバーを辞退することになりました。私は残留するも、それまでのサッカー漬けの生活から体育祭の準備や受験勉強がちらついて中途半端な生活になってしまいました。高校三年生の後期。他の5人のメンバーにとっても、サッカーに専念する気持ちを持ち続けるのは難しいことだったのではないのでしょうか。

11月3日準決勝 鎌倉高校戦

三ツ沢サッカー場でテレビ放映が入り、緊張の中の立ち上がりで、あっさり2点を失ってしまいました。気持ちが悪く落ち着き、ポゼッションで上回り、MF田野岡(59回)がシュートを決めて1点を返し、インターハートの雪辱を果たしたいと攻め立てましたが、1-2で、試合終了。
我々の代の高校サッカーは終わりました。

皮肉なもので、臥薪嘗胆して鎌高を下して関東大会の県代表になったのに、逆に鎌高メンバーの闘争心に火をつけてしまい、倍返しされてしまいました(鎌校がインターハイと選手権の県代表の2冠を達成)

「インハイ、選手権はどこにモチベーションを持っていけば良いのか、難しかったな。欲がなかった。鎌高を絶対、倒すと言う熱がなかったね」
近藤

「最後の鎌高戦では仕返しができなかったね。個人的には、人生最悪の試合。悔いしかありません。二度と勝負どころで緊張しない!と思いましたが。ただ、あの悔しさがあって、今の自分があるのは事実。面白いものだね」上田

26年ぶりの鎌高戦

高校サッカーは特別です。毎年、同期が集まっては、高校時代のサッカーの話で盛り上がります。インターハイも選手権も県の代表になれたはず、と威勢よく話しはじめますが、最後には、鎌高のメンバーに比べると、自分たちは、サッカーに向かう姿勢が甘かったと悔いるパターンとなります(笑)。

いつか鎌高の同期に、こんな話をぶつけてみたいと話していたところ、今年の夏にそれが実現しました。26年ぶりの鎌高戦です。でも、サッカーではなく、飲み会。

鎌高にとっては、さぞ気持ちの良かった湘南戦だったろうと思っていました。話を聞くとそうでもありませんでした。どの試合も湘南に内容では押されていたので、良いイメージはなかった。

「湘南でサッカーをやったかった!」などなど、聞いてみないと分からないものですね。

多感な時期である高校時代のサッカーは、どのようなキャリアのサッカー選手にとっても特別なものであり続けると思います。湘南の現役選手にとっては、現在進行中のことですね。自分たちの経験から、現役選

手には、ぜひ悔いのないチャレンジを続けて欲しいと切に願っています。でも、真剣になればなるほど、悔いは残るものです。その悔いが本物である分、その後の人生のエネルギーにもなるのです。現役諸君の奮闘にエールを送り、59回生のストーリーを閉じたいと思います。



ペガサス70は85歳を筆頭に70歳以上のメンバーで構成されています。活動は0-70、0-75、0-80等、大会や交流会のカテゴリーに合わせて行っています。また全体では馬入ふれあい公園サッカー場で8月を除く毎週火曜日に行われている0-70神奈川交流会に参加しています。これは神奈川県サッカー協会の主催で行われ、加盟している5チームの合同組織です。全体の参加者は多い時間で70名近くになり、ゲーム形式の練習を行ってきました。また月1回はロイヤルリーグと称してチーム別対

抗戦を行っています。

1. 0-70の活動

今年度は昨年と変わり選手層の幅を広げて、70代のメンバーで対外試合を行いました。

公式戦は全国シニア県予選8試合と県シニアリーグ4試合です。前者は4勝3敗1分けて、1位の茅ヶ崎シニアとは大差の2位でした。また、後者は1勝3敗の4位とふがいない成績に終わってしまいました。

県外の大会は2月から11月にかけて、千葉市マスターズシニアサッカー大会、家康公記念杯清水シニアサッカー大会、Gリーグの栃木大会・茨城大会・群馬大会、サッカーフェスティバルエコパ掛川、スパーエイジサッカー大会イン刈谷、清水4県対抗、東日本ロイヤルの9つの大会に参加しました。成績は14勝11敗3分けでした。

ペガサス70の今年の傾向は試合の参加者が少なく、人集めの苦労が例年以上に厳しかったことです。長寿化の時代になり70過ぎても働く人が多くなってきたこと、70代が相対的に若々しくなりプレーの激しさが増して怪我が多くなってきたことなどによりです。

来年はリーグ加盟チームが1チー

ム増えて公式戦も増えます。そのためには70歳になるメンバーの確保が急務です。現在数名を誘っています。まだまだ足りませんので更に勧誘に注力していきたいと思っています。

2. 0-75、0-80の活動

0-70会員の半数以上の20名が75歳以上で、その中で8名が80歳以上です。みなさん上記の0-70馬入交流会やロイヤルリーグに参加しています。他にも0-75の練習会が首都圏の仲間ではほぼ毎週、横浜や川崎で開かれ、こちらにも参加しています。

最近では0-75や0-80の大会が県外で多く開催されるようになりましたが、残念ながらペガサス単独としてはチーム編成ができず、多数の応援を得て混成チームを作ったり、神奈川チームや首都圏チームに加わって参加しています。今年も0-75の大会は、サッカーフェスティバルエコパ掛川、宮城松島大会、藤枝草サッカー大会、グリーンリーグ0-76大会、東日本ロイヤル大会の5大会が行われ、0-80の大会は同じ掛川、宮城松島、東日本ロイヤル大会に西日本OB連盟堺大会を加えて4大会が行われました。

0-75や0-80の試合ではペースはゆっくりですが、それだけに面白

いパス回しのゲームが出来ます。多くの方が高年齢でのサッカーを目指して戴きたいと思えます。そして早くペガサス単独でのチーム編成を実現したいものです。生涯現役を目指して、怪我の無いようサッカーを楽しみたいと思います。



トールラス60

トールラス60は現在神奈川県シニアサッカーリーグ60雀2部に所属しています。

今期の結果…7敗1分け。勝ち点1。得点0、失点13。

試合の参加人数は、平均17人で試合成立に十分な人数が集まりました。しかし、60才以上のプレイヤーで構成されている対戦相手に比べて、65才以上のメンバーからなるトールラス60は体力・走力における力不足は明らかでした。加えて、特にシーズン後半になると故障者が多くなり、後半プレーする事のできる人数は限

られてきました。

失点は、1試合平均1.6点(13失点/8試合)ですので守備はそこそこ頑張っていると言えます。少なくとも、試合を壊すような大量点を奪われるような試合は一度もありませんでした。

一方、得点はゼロでした。

今期は昨年の反省を踏まえて、中盤を厚くして試合の形を作るという目的で、これまでの4...3...3を4...4...2に変えてシーズンをスタートしましたが、最後までうまく機能しませんでした。試合中どうしても中盤の4人が下がって守備をすることが多くなり、ボールを奪っても、パスをつないで複数人でボールを前へ運ぶ事が出来ず、無理な縦パスをすることが多くなります。その結果、相手にパスをカットされて逆襲を受けるといふ悪いパターンになります。

一方、FWの2人は中盤からの押し上げが無い為孤立してしまい、決定的なチャンスを作る事がほとんど出来ず、シュート数がゼロという試合が多く見られました。

走れなければ相手ゴールへ迫ることはできません。中盤に走力のあるプレイヤーを2

人育てる事が急務です。

ペガサス65

ペガサス65はトールラス60のメンバーをコアに他クラブ所属の65歳以上のメンバーを加えて関東リーグに参加しています。

本年度は5月の栃木大会(那須)、10月の群馬大会(前橋)に参加しました。そして2月の千葉大会に参加予定です。

毎回参加人数がギリギリでペガサス70から助っ人をお願いして何とか試合をやるような状況ですが、試合はさておき夜の懇親会を楽しみに頑張っています。

今後も他クラブの65歳以上の方を勧誘してペガサス70へ繋げて行きたいと思っています。



今年のペガサス60は、納会に於ける神奈川県シニアリーグの2部降格の報告から始まりました。当然のこととして、今年目標は1年での1部

復帰です。

久しぶりに緊張感をもってシーズンインした今年は、シニアリーグに25名で登録し、8試合で平均14名が参加しました。一方、全国シニアO-60神奈川リーグにはペガサスから23名、トーラス他から16名が1チームとして登録し、これまでに7試合を消化して平均18名が参加しています。

まずはシニアリーグですが、2部リーグを5勝1敗2引分で終わり、勝点17得失点差9として優勝することができました。1年での一部復帰は非常に難しく、厳しい試合が続くことは十分予測していましたが、目標通り結果を出せたことは、大きな喜びであり、メンバー全員の大きな自信になったかと思えます。

では、優勝できた要因はどこにあったのか、これまでの数年と何が変わったのかを振り返ると、3つのことが挙げられます。一つは、チームの目標としてシーズン前から明確に優勝を目指し、勝つための会話をいつもしていたことです。戦術のこと、フォーメーションのこと、相手チームのこと、等々。このことは、菅浦監督(49回卒)を中心にキャプテン・副キャプテン・審判担当とチームの連絡係でもある総務担当が日常的に

意見交換をし、チームの中で情報を発信し続けてくれたことが大きかったと思います。そして試合参加者の士気が常に高かったことです。

二つめは、毎試合安定して人数が集まり、センターラインが余り変わらないでゲームコントロールができたことでしょうか。試合中の意思の疎通がかなり図られてきたようです。

三つめは、いつも同じメンバーで試合に臨めたことにより戦術的リズムが落ち着いてきたことです。その結果得点力が格段に増えて、相手に先取点を奪われても追いつくことができ、負け試合が激減しました。因みに、1・2部全19チームの中で総得点16点は最多得点でした。

一方、トーラスとの合同チームで参加した全国シニアO-60神奈川リーグのほうは、7試合を消化したところで5敗2引分と未だに勝利がありません。得点2失点9は結構厳しい結果です。1試合平均でペガサスからは11名、トーラスからは7名が参加していましたが、失点は減ったものの得点パターンが中々できません。単純に年齢で2チームに分かれたペガサスとトーラスですが、試

合中のコミュニケーション不足が祟っているようです。1試合を安定したリズムで進められない状況を如何に解消するか、が来期の課題のように思われます。

以上の2つのリーグ戦以外にも、Gリーグ、時之栖シニア大会、湘南高校OB会、ペガサス祭等の内部イベント、他チームとの交流試合等々合同で試合に参加する機会は増えてきていますが、リーグ戦以外の出席率は安定的ではありません。来期はリーグ戦以外のゲーム機会を今年以上に増やし、皆でボールを蹴る時間を増やすことが大切になると思います。そして、次の世代のメンバーを安定的に増やしていくことも大事になるかと思えます。

1年での一部復帰を果たした事を大きな自信として、ペガサスの基本理念である全員参加で、来年も楽しいサッカーを目指したいと思えます。

3年前には県シニアリーグの1部にいたペガサス50と55が合流したのが2年前。合流前年に両チームとも降格したために、2部からのスタートとなって2シーズン目となりました。勝ったり負けたり1年目を経て、選手相互の特徴もわかりあい、戦術理解も深まったと思われた今シーズン、2部での上位進出を目論んでのスタートでした。

ところが、ふたを開けてみると、なかなか目論見通りにことは進みません。初戦、第2戦と試合を優位に進めながら少ないチャンスを決められるという形で僅差での試合を落とされているうちに、すっかりチームとしてのリズムを失ってしまったのです。いったんうまくいかなくなると、そこから流れを変えるのが難しいのはご承知の通り。結果、県シニアリーグが0勝7敗(得点0、失点16)で最下位となり、来期の3部降格が決定、全国シニアも11月8日現在で0勝4敗1分け(得点0、失点7)。両方のリーグを通算しても、まだ一度も勝てず、さらには1点も取れないという、シーズン前には予想だにしない不本意な成績となってしまいました。

原因としては、選手の転勤や故障



ペガサス50報告

湘南ペガサス50代表

55回生

藤原 新

のために、常に参加選手が入れ替わり、人数もぎりぎりだったこと、またそのために安定した選手の組み合わせができず、戦術の熟成ができなかったことなど、理由をあげればきりがありません。個々には優れた選手もおり、選手のレベルは必ずしも低いわけではありませんが、上位のチームに比べると一人一人のほんの少しの差がチームとしての差になって現れてしまいます。選手それぞれがあと一歩の努力をすることでその差を埋めていく必要を痛感したシーズンでした。しかし、なにより厳しかったのは、若手のリクルートがうまく進まず、メンバーの平均年齢が他チームに比べて相当高くなっていることのように感じられます。ただでさえ体力勝負では不利なうえに交代選手も少ないこと、間違いなくこれが試合を厳しくしている大きな要因です。

試合内容を見ても、前半は互角の戦いをしながら、後半運動量が落ちたところに相手のフレッシュなメンバーにかき回されて失点を重ねるという形が多くなっています。諸先輩の中には、年齢に関係なくパワフルに動き回りスピード感のあるプレーをする選手もおられますか

ら、「日頃の身体つくりとトレーニングの不足だ！ 齢のせいにはせず練習せい！」というお叱りの声が聞こえてくる気もしますが、やはり平均年齢の差はじわじわと効いてきます。

ペガサス40の年齢構成もあつて、40からの移籍がなかなか進まない中、来季に向けては選手を確保するとともに、50代前半のリクルートを進めてチームの若返りを図ることが必要なのですが、一方、そのために、メンバー内での湘南高校OBの比率が低下してしまうというジレンマにも陥っています。

ペガサスは湘南OBのチームではありませんし、湘南OBとそうでないメンバーが融合して共に懇親を深めつつワン・チームとしてサッカーを楽しむことが何より大切であることは言うまでもありませんが、ペガサスの設立の精神や湘南高校との連携などを考えたとき、一定程度のOBがチームにいることもまた必要なことだと思われまます。

現在さまざまな形でサッカーを楽しまれている50代OBの皆さん、また長くサッカーから離れていたが、またやってみようかな？ という気持ちや少しでもお持ちの皆さん、チームに加わってみませんか？

最初はほんの短い時間でも結構です。決して無理はさせません。無理のない範囲でサッカーを楽しむことで、身体や気持ちの調子、さらには日頃の生活も変わってきます。少しでも興味を持たれた方、まずは藤原(aratafi0@ezweb.ne.jp)まで、お問い合わせをお願いします。



今期のペガサス40の報告をさせていただきます。64回生の羽田（はだ）です。私は今年40代後半からの遅まきながらの加入となりました。というのは一昨年までは同じリーグの鎌倉四十雀に所属していたからです。私が鎌倉市出身ということもあり、40代前半に市内の同年代の友人達と一緒に鎌倉四十雀へ加入しました。その後、若手の台頭で出場機会が少なくなり退団したものの、まだ自分の中ではできるといふ思い、どういう形か分かりませんが頂点を目指した戦いをもう一度したいという

思いで改めてペガサスに加入しました。ペガサスには湘南OBの同年代や1学年下のよく知っているメンバーが多かったこともあり、温かく迎えていただき、楽しく1年を戦い抜くことができました。

さて今期のリーグ戦の結果ですが、最終成績は4勝6分け1敗の4位で、今年の全国シニアに出場した西湘や、毎年上位の常連である横浜シニアに引き分けるなど守備面で粘り強く結束した面はあるものの、例年の傾向のようですが引き分けが多く、下位の相手に対しても勝ちきれない試合があり、もったいない印象を受けました。

一年間共に戦ってみて思ったのは、非常に雰囲気の良いチームだということ。今年は井上監督兼プレイヤーのもとで戦いましたが、彼を中心に非常によくまとまっているイメージです。戦術としては湘南らしいといふのでしょうか（実は在学中にはいわゆる湘南のサッカーというものがよくわかっていませんでしたが）、堅守を保ちながら数少ないチャンスを得点につなげることと、いくつかの決まり事を元に戦うというシンプルなものでした。その戦術の堅持とチームワーク、プラス個々人の戦術

理解度と能力をベースにうまく戦えていたように思います。

しかし以前鎌倉に在籍していた観点から、より上位を狙うために思ったことを言いますと、前述のように精神面では非常によくまとまったチームですが、技術・体力面という点と必ずしも他チームから抜きん出ているという訳ではありません。技術・体力をこの年齢で劇的に向上させるのは困難ですので、戦術面等の考え、勝ちたい気持ちの部分や向上させていくしかないかと思えます。つまり勝つため(得点に直結するため)のプレイにもっと集中すること、具体的には各々がリスクを冒して(自分のやりたいプレイを抑えて)キーマンにボールを集めるとか、一瞬の得点チャンスを生かし切るなど、明確な意図を持ってプレイをすることです。また、これは精神論のきらいはありますが、ボールを全力で奪いに行くとか、がむしゃらさや味方を鼓舞するプレイが少ないということです。ペガサスより上位を占めるチームは少なくとも技術や戦術的にペガサスを上回っているチームですから、そこに本当に勝ちたいのなら、それ以外の部分で上回らないと勝ち切ることはできません。逆にそ

うした部分を向上させれば、また優勝できる可能性は充分にあると思います。(いろいろと生意気なことを書きましたが、あくまで個人的観点ですので、ご容赦ください。)

そんなペガサスですが、年々下の世代からの加入が減少していて今後の存続が危ぶまれています。私や1学年下の世代があと2年もすれば50歳を迎えるため、その世代が抜けると湘南OBがほとんどいなくなってしまうのです。現在は約半数の他校出身の方達のお陰でチームが存続できているものの、運営面はやはり湘南OBが行う必要があります。ペガサスの基本方針は「サッカーを楽しむこと」ですので、楽しんでサッカーをしたい人であれば誰でも参加可能です。40代の皆さん、是非一緒にサッカーを楽しみましょう！



湘南高校サッカー部OBの皆様、平素より大変お世話になっておりま

す。若手OBチーム、トトカルチョ湘南の篠塚貴志(82回)です。今シーズンも10代、20台前半の選手がメンバーの大部分を占め、私はチーム内で群を抜いた最年長となっていますが、また暫くは後輩たちと楽しくサッカーをさせて頂きたいと思っています。なかなか良い知らせを届けられず恐縮ですが、まずはトトカルチョ湘南の2019年度神奈川県リーグ(三部)の試合結果を御報告させて頂きます。試合会場は主に海の公園・玄海田公園といった、横浜市内の芝生のグラウンドで行われました。

- 5月26日 t.viaggio ○3-2
- 6月16日 SALVATORE1991 ×0-3
- 6月30日 FC REBOOT ×1-2
- 7月28日 FC Girasole ×0-2
- 8月25日 FC ARROWS △0-0
- 9月22日 YSCCフエンテ ×0-4
- 9月29日 明治生田FOX ○4-1
- 10月27日 FC GONTAZAKA ×0-1

【2勝5敗1分(7位)】

今シーズンも昨シーズンに続き若いメンバーの運動量を生かした活躍が期待されるところでしたが、平均年齢が比較的若いチームであるにも関わらず相手チームに走り負けている印象が強かったです。毎試合出席できるメンバーも少なく、また各自

のトレーニング量も確保できていなかったようです。無失点で終えている試合がほとんどありませんでしたので、堅守が売りの湘南高校としては運動量不足(練習不足・努力不足)が色濃く出たシーズンでした。チームとしての活動機会が相変わらず少ないことも課題ではありますが、各自のチームの一員としての自覚、昇格へのこだわりが欠けているのかもしれない、メンバーのチーム一員としての自覚を醸成する工夫が必要であると感じております。

今シーズンからは、ある程度チーム運営を分担するよう心掛けました。今まで幹事が備品やユニフォームの管理・調整を一手に引き受けていましたが、ユニフォーム係、グラウンド確保係、ボール係(毎試合誰が持ち帰るか決めていきます)などを決めて運営を指定見ました。何とか今シーズンは無事に全試合を終えることができ、役割分担もなんとか機能したと思います。来シーズンはより一層組織化したチーム運営を心掛け、チームへの参加意識を高めていきたいと思えます。

まだトトカルチョに参加されたことが無い方も、87回生(野崎・濱田)

（93回生（杉原・内藤・丸山）まで各学年に登録者がいますので、登録している同期に声をかけていただき、より多くのOBに参加して欲しいと思います。私をはじめ、86回生の石川、長（88回）、町田（89回）など、サッカー部のコーチを務め、各学年に精通したメンバーもおりますので、気軽に連絡していただき参加してみて下さい。86回生より上の学年は転勤の都合で退団してしまったメンバーも多いですが、後輩たちとサッカーをやりたい方はぜひご連絡ください。トトカルチョは先輩・後輩の垣根なく、ともに同じグラウンドで練習をした仲間として楽しく試合をしています。湘南高校サッカー部は私が在学中から2度顧問の先生が変わっておりますが、どの学年の選手もしっかりとした基礎技術を持ち、

原理原則をよく理解してプレーしているので、学年間の連携不足はあまり感じられません。それぞれ湘南高校のグラウンドで、真摯に練習に取り組んできたことを強く感じさせられます。湘南高校サッカー部OBとして今後まだまだサッカー部OBとしてまとまってサッカーできる可能性を感じておりますので、今後も継続して若手OBのコミュニケーション

の場で有りたいと思います。OGの参加・応援も大歓迎です。湘南サッカー部のOBはそれぞれ具体的な目標をもって大学生活に打ち込んでるので、就職活動にはあまりお役に立てないかもしれませんが、幅広い業界の先輩がおりますので少しは相談に乗れますし、人脈拡大にでも役立ててもらえれば幸いです。

現役サッカー部が好成績を挙げ続ける中でトトカルチョ湘南は再びリーグ下位に沈んでおりますが、今一度、リーグ昇格に向けてチーム運営の改善、意識改革を進めていきたいと思えます。メンバー集めから含めて再度努力したいと思えますので、今後ともご指導・ご協力のほどよろしくお願ひいたします。



毎年、ビーチサッカー及び湘南スプレッドのことを書く機会をいただき誠にありがとうございます。

湘南高校サッカー部OBを軸とし

た、ビーチサッカーチーム『湘南スプレッド1545』は13年目となりました。

今年度は、2年に1度のFIFAビーチサッカーワールドカップがパラグアイで開催されました。海のない内陸国初の開催となった本大会、投稿時点（11月26日現在）で、予選リーグを3連勝で突破、決勝トーナメントに進出を決めています。ラモス監督のもと、決勝トーナメントでの活躍が期待されます。

国内の競技環境は、地域リーグの整備・強化を進めている段階で、9地域（北海道、東北、関東、北信越、東海、関西、中国、四国、九州）で実施されています。スプレッドは関東リーグに所属しています。トップリーグはまだありません。

今年度の関東リーグは、11チーム総当たり1回戦で行われ、スプレッドの結果は3勝7敗の第8位という結果になってしまいました。関東の上位を長年維持してきましたが、チーム力の陰りが顕著です。

一方、全国大会の予選となる、関東大会では、全国大会出場を逃したものの、関東ベスト4の千葉県のチームに1勝1分という成績を残す（他チームとの得失点差の関係で敗退）

等、一定の成績は残しました。しかしながら、全国出場権を得た上位3チームとの差は開いている状況です。主力の設立メンバー（1985〜1986年生まれ、79回生）を中心に選手層の高齢化が進み、世代交代が急務です。

そんな中でも、少しずつ若手選手も加入しています。また、来年度は、ロンドン駐在中の元ビーチサッカー日本代表候補の渋谷選手（82回生）が帰国予定（投稿時点では不確定）であるため、設立メンバーの奮起と共に、2020年に飛躍できるようなチーム作りに励んでいきたいと思えます。

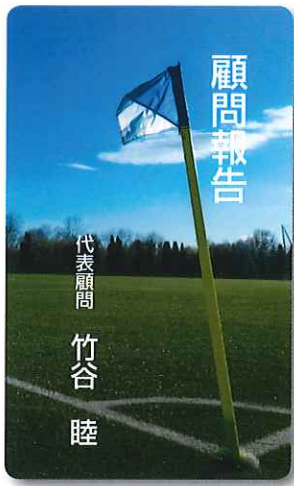
普及活動としては、8月に小学生及び一般向けの「湘南藤沢ビーチサッカー大会」が藤沢市鶴沼海岸サーブビレッジ前にて、開催され、第6回目を無事終えました。スプレッドは、ボランティアスタッフとして毎年入っています。これまでは2コート開催でしたが、今年度は、3コートに増設、トランシーバーを活用して情報伝達をする等、毎年大会が進化しています。主催団体の藤沢市ビーチサッカー協会の目標である『常設コート設置』に向けて、少しずつですが、前進しています。スプレッド

としても、日々関係団体と協力しながら、『常設コート設置』実現に向けて、尽力していきたいと思います。今年もこの場を借りて、選手及びサポーター頂ける方を募集させていただきます。少しでも興味を持っていただいた方がいましたら、お気軽にご連絡いただければと思います。

これからもビーチサッカーを通じて、OBの皆様にも明るいニュースをお届けされるよう頑張つて参ります。引き続きご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願いします。

櫻井大輔

(二財) 日本ビーチサッカー連盟 評議員
 関東ビーチサッカー連盟 事務局長
 (二社) 神奈川県サッカー協会
 ビーチサッカー担当
 藤沢市ビーチサッカー協会 理事
 メールアドレス: sakuraid@jinconsult.com



OB会の皆様、今年度も多大なご支援を頂きましてありがとうございます。

ます。

湘南高校は令和3年に創立100周年を迎えます。同時に湘南高校の校技と称され開校早々に創部した湘南高校サッカー部も100周年を迎えようとしています。無事に100周年を迎えられることについて喜びを覚えるとともに、歴史ある湘南高校サッカー部の素晴らしい伝統を継承していく責任や使命の重大さに身の引き締まる思いがいたします。選手並びにスタッフ共々誠心誠意日々精進して参りたいと思っております。

さて、今年度の大会結果については、春先の関東大会神奈川県2次予選3回戦で、弥栄高校に0-3で敗れベスト36。インターハイ神奈川県2次予選1回戦では、厚木北高校に1-3で敗れベスト28。全国高校サッカー選手権大会神奈川県2次予選では初戦の日大に接戦の末、PK負けし、ベスト40という結果になりました。また、高円宮杯JFA U-18サッカーリーグ2019神奈川県では、K3チームがグループ3位、K4チームが5位という結果でシーズンを終えることとなりました。

最後の大会である選手権予選では、初戦の日大戦が湘南高校体育祭の翌日ということや、気候の変化も激し

い日々が続いたこともあり、選手にとってはコンディションを整えるのが非常に難しかった中、応援含めて部全体で一致団結し、最後まで諦めず、よく走り、戦いきつてくれたと思っております。しかし、日大戦に応援に来て下さった方々は目の当たりにしたと思います。サッカーというスポーツの厳しさというものを最後に味わうことになった試合でもあったということも事実です。そして、その紙一重の差が、来年度の関東大会2次予選への出場権も地区予選から戦い抜いて獲得しなければならぬという新チームにとっても非常に厳しいスタートとなつてしまいました。しかし、1、2年生には逆にその結果をポジティブに捉え、もう一度初心にかえり、オフザピッチ、オンザピッチを問わず、1から出直していこうと伝えていきます。また、3年生には、この紙一重の差を埋めるためには何が必要だったのかということを考え、是非これからの受験勉強や今後の人生に活かしてもらいたいと思います。

最後になりましたが、来年の3月には、9回目となる湘南高校サッカー部海外遠征があります。OB会主催ということ、今までもまた、今回

も企画から事前指導、事後指導、引率や現地での支援、他にも様々な場面でOB会の皆様にはご支援頂いております。現役選手にとっては一つひとつのどの経験も湘南高校サッカー部だからこそ味わえる、言い換えれば湘南高校サッカー部の一員でないと決して味わうことができない貴重な経験であると常々伝えていきます。サッカー部を代表しまして、OB会の皆様にはこの場をお借りして心より御礼申し上げます。

今後とも引き続きの温かいご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



日頃よりOB会の皆様には温かく、また多大なるご支援を頂き、ありがとうございます。OB会の皆様のご期待にこたえられるよう、選手と共に日々精進していく所存です。

私が湘南高校に赴任してから4年になりました。私はBチームを中心に、少しでもトップチームに貢献で

きる選手が増えるよう指導を行っており、その中から次年度の中心選手として活躍する選手が数多く出ていなければ、チームとしての底上げはないと感じており、未来の湘南高校サッカー部を支える責任を感じております。特に『止める・蹴る』の基本的な技術に関しては、物足りないものを感じており、動きの中で技術を発揮できるようにすることを目指しております。育成リーグ的な意味合いを持つK4リーグの試合でも、有利に試合運びながら、最後の一つ前二つ前のパスが悪く、チャンスを活かせない場面が多く、勝ちきれない試合がありました。

さて、現在チームは新人戦を終え関東大会二次予選への出場を決めました。これから来年度を戦っていく上で必要な技術、フィジカル、メンタルと『個』の上積みをしていく時期になります。また、今年度はOBの方々の多大なるご支援とご助力を頂き、私個人としては初めての海外遠征も控えています。このような貴重な、また充実した活動を通して、OB会の皆様により良い報告ができるよう、これからも竹谷先生やOBコーチの皆様、その他スタッフの皆様と協力して、チームの成長に微力ながら

ら貢献できればと思います。今後とも引き続きご支援をいただければと思います。



今回、現役報告をさせていただきます。高井悠正です。

OBの皆様からの多大なるご支援とご協力により、私たちが日々大好きなサッカーと向き合い充実した活動を送れていることに、感謝しております。そのご支援とご協力への感謝の気持ちを持って、日々仲間と切磋琢磨し、精進していきたいと思えます。

選手権2次予選1回戦の日大高校戦でPK戦の末惜しくも敗れ、これまでチームを引っ張っていた3年生が引退しました。この結果、新チームは新人戦から戦うこととなり、より厳しい道を歩むことになりました。新チームでは、歴史ある湘南高校サッカー部の伝統を繋ぎ、「神奈川制覇」という大きな目標を掲げ、引退した3年生の悔しさを忘れずにチーム一

丸となって戦っていきます。

新チームになってから話し合いを重ね、日々の活動のスローガンとして「凡事徹底」を掲げました。日々の生活から当たり前のことを当たり前にやり、さらにそれ以上のことも当たり前にできるように「オフ・ザ・ピッチ」と、サッカーにおいて基本的な技術である「止める・蹴る」を何よりも大切にするなど、「オン・ザ・ピッチ」の両方を大切にし、徹底できるように心がけています。

そして、湘南高校サッカー部の強みである「粘り強い守備」と「集中力」を武器にして、強豪校にも勝つていけるよう「走れる」チームになること、試合中の選手間の情報共有をより盛んにしチームとして1つの目的に向かってプレーすることを大切にしたいと思えます。それに加え、「フィジカル」の勝負においても負けないようにウエイトトレーニングを積極的にを行い、主に走り方など体の使い方の指導や栄養指導などを最大限サッカーに還元できるように一人一人が意識を高く持って取り組んでいきたいと思えます。

近年、強豪校を相手に「惜しい試合」をして3年生が引退する年が続いています。しかし、その「惜しい

試合」に勝たなければ、「神奈川制覇」という目標は達成できません。その試合にしっかりと勝ち切るために、日々の限られた練習時間の中で一つひとつのプレーの質を高めることが重要だと考えました。「神奈川制覇」という目標を成し遂げるために、毎回の練習の雰囲気も大切に、一人一人が自覚を持って、勝ち上がれるチームになりたいと思えます。

湘南高校サッカー部という他のチームとは違う恵まれた環境でサッカーが出来ていることを自覚し、それを日々支えてくださっているOBや保護者の皆様をはじめとする全ての人への感謝の気持ちを忘れずに日々活動したいと思えます。

また、3月にはスペイン遠征を控えています。ただ行くだけ終わらせないように、一人一人がテーマを持ってより充実したものにできるようにしたいと思えます。現地では異国のサッカーに触れることで何を感じ、どう思うのか、そしてそれを自分たちのサッカーに融合しレベルアップしていけるようにしたいと思います。サッカー以外にも現地の学校との交流や観光を通じて、言語や文化、考え方の違いを体感し、今後の人生につながる大きな財産にできるよう

にしていきたいと思えます。このよ
うな貴重な経験ができるのもOBや
保護者の皆様のおかげです。部員一
同感謝の気持ちをもって、「神奈川
制覇」という目標に向かい日々の練
習を大切にして、一生懸命努力して
いきたいと思えます。今後も変わら
ぬご指導、ご支援をよろしく願い
いたします。

編集後記 (OB会から)

事務局長 48回生 関 佳史

▼2020年春、第9回となるスペ
イン遠征を実施する。3月24日(火)
から4月1日(水)まで8泊9日の
日程。今年は、スペインのみで、ピ
ルバオとマドリードに行く。ピルバ
オでは、試合、指導練習のほか、学
校交流、アスレチック・ピルバオの
ホームスタジアム「サン・マメス競
技場」見学、市内観光など盛りだく
さんだ。竹谷先生、高谷先生の教員
2名が同行する。OBは、佐藤コー
チ(94回)、相羽さん(41回)、菅浦
さん(49回)、若木さん(64回)、町

田さん(89回)が参加する。森秀樹
さん(46回)の半年強に及ぶ英語の
研修を今回も行った。

▼2020年8月15日(土)、夏の
OB会を行う。東京オリンピックが
あるため、早々に日程を決めた。セ
ミナーの講師は、清水好郎さんにお
願ひする。清水先生は1997年か
ら2008年まで湘南で教えた。ス
ペイン遠征を発案し、2004年に
実行した指導者である。何故、スペ
イン・バスクなのかという最初の思
いをお話いただき。清水先生の教え
子の皆さんが集るチャンスだ。

▼柳川明信さん(27回)が11月に亡
くなった。高校卒業後には専門の教
員がいない時期にコーチとして現役
を教えた。OB会長、湘南ペガサス
会長を歴任された。「OB会とペガ
サスはサッカー部OBの活動の両輪
である」と書かれたOB会報の文章
が印象に残る。ペガサスに外部の方
が増えた現在、この言葉を改めて思
い起こした。ご冥福をお祈りする。

▼鈴木啓介さん(48回)が2019
年1月、日本学士院会員に選出され
た。鈴木さんは東京工業大学教授で
元副学長、専門は有機合成化学。日
本学士院会員は定員150名で各分
野の第一人者が選出される。ノーベ

ル賞の山中伸弥氏らが名を連ねる。
▼水戸将史さん(56回)が2020
年2月に予定されている藤沢市長選
に立候補する。去る8月に立候補宣
言を行い、現在は藤沢市内を細かく
回っている。藤沢一中、湘南、慶応
大学を卒業。県会議員、参議院議員、
衆議院議員を務めた。過去の選挙は
横浜市泉区中心だったが育った自治
体の首長に挑戦する。

▼元榮太一郎さん(69回)が11月に
『複業』で成功する』を新潮新書
から出版した。元榮さんは、弁護士
ドットコムを創業。現在、同社の代
表取締役会長、弁護士、参議院議員
と、3足のわらじを履いて活躍し
ている。

▼西智さん(71回)が2019年4
月の藤沢市議選で当選、議員2期目
となった。システムエンジニアから
転身、ジャージに「子育て世代応援
宣言」のタスキをつけて、自転車で、
一人で選挙区を回るという特徴ある
戦術で支持を集めた。

▼湘南・浦和・仙台一高のサッカー
部OB交流戦。2019年11月23日
(土)横浜カントリー&アスレチック・
クラブにて、仙台一高・浦和・湘南
の三校サッカー部OB(50才以上)
交流戦を行った。

仙台一高と湘南は昭和21年の国体
準決勝で対戦(湘南優勝)の関係。
仙台一高と浦和は昭和30年の高校選
手権に出場(浦和優勝)の関係。
浦和と湘南は、浦和戦(湘南戦)の
相手。

三校での交流戦は2回目。(仙台
一高と二校での交流戦は数年前から
継続中)

今年湘南が幹事当番で横浜・山
手の名門外国人クラブのグラウンドで
実施。三校に加えて、YCACの外
国人チームも参戦し、4チームでの
試合となった。湘南は最多の20名が
参加。YCACのクラブハウスを借
りて、懇親会を行った。この交流戦、
菅浦義治さん(49回)と藤塚久雄さ
ん(54回)が幹事を務めた。

▼藤塚久雄さん(54回)は、1989年、
OB教員で、高校選手権全国ベス
ト16まで勝ち上がった時の監督。
1984年から1996年まで、校
舎の改築時期に湘南で教鞭をとった。
その後、茅ヶ崎北陵などでサッカー
の指導を行い、湘南ペガサスでもプ
レーしている。早いもので2021
年3月には定年を迎える。2021
年の夏のOB会では、藤塚さんの講
演を予定している。

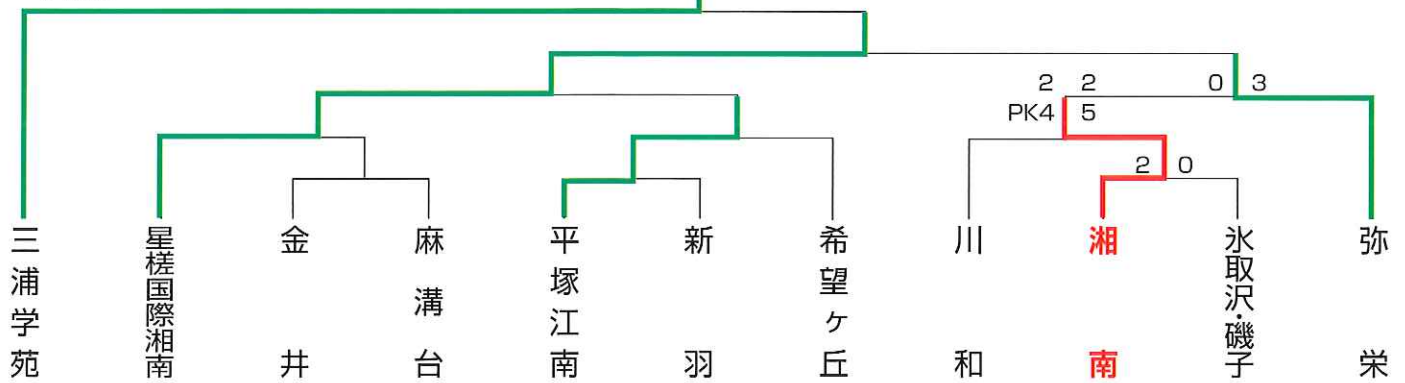
現役戦績報告

【総評】ここ数年の傾向であるが、実力同等または少し上の相手に「善戦」で終わることが多い。基本（止める・蹴る）の正確さと走力（これは上手、下手に関係なくできる）を身に付け、県代表を目指して欲しい。

■ 2019年度関東大会2次予選Hブロック (4月)

三浦学苑

ベスト28~38

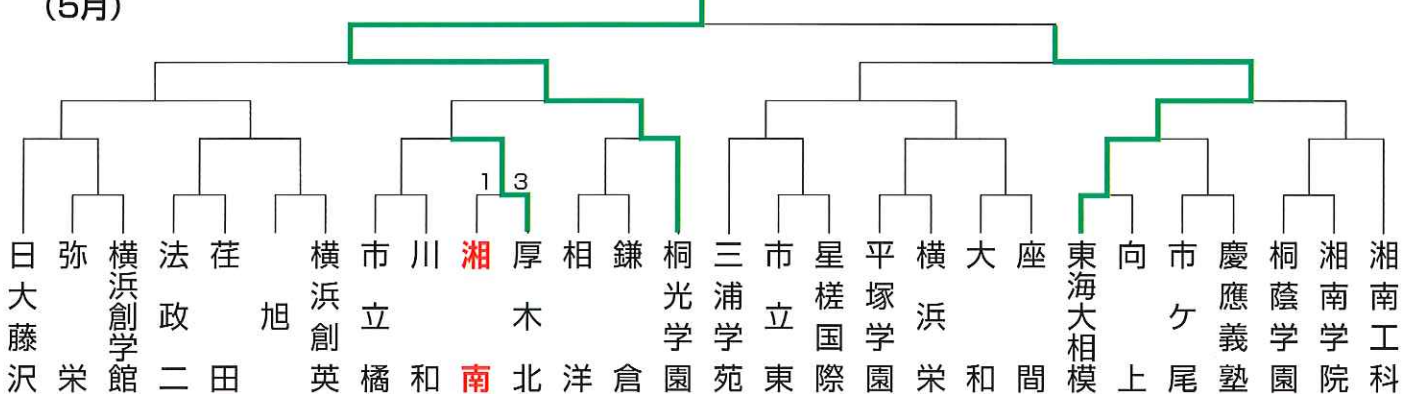


対川和高戦は最後まで粘り強く戦い、PK戦をものにする。K2リーグ所属の弥栄高には善戦したが「地力の差」が出てしまう。

■ 第57回高校総体2次予選 (5月)

桐光学園

ベスト16~28

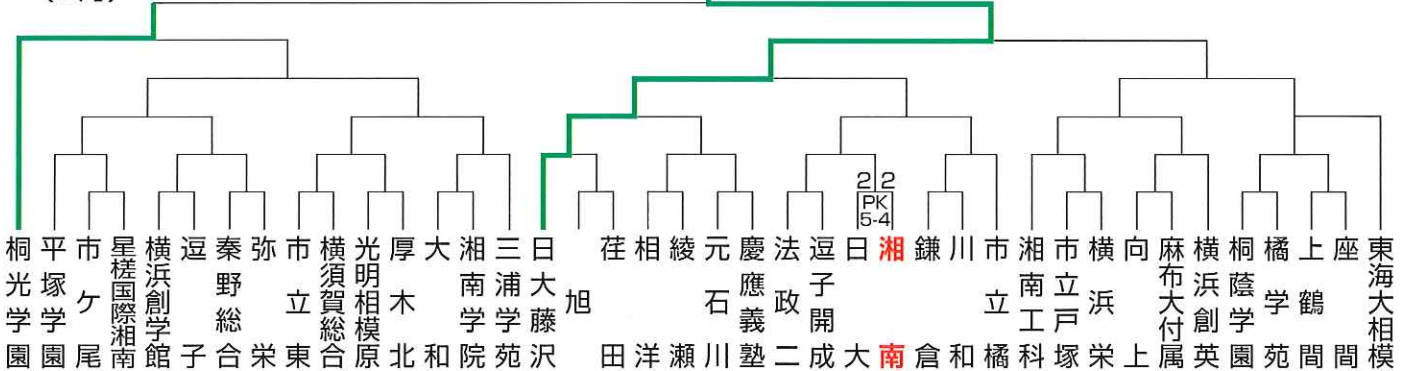


厚木北高戦も、前半先制し(1-1)善戦はするが、大事な所でのトラップやパスミスが目立ち相手ペースになる。後半は動きが鈍り、プレイスピードが遅いのも気になった。

■ 第97回全国高校選手権大会2次予選 (9月)

日大藤沢

ベスト23~40



立ち上がりから苦しい戦い。前半はPKを含め0-2で終了。後半は動きも良くなり相手の足が止まったところを突き2点を挽回。もう1点が取れずPK戦で惜敗。

3年生は引退し、新チームの関東大会予選(4月)からの戦いに、本大会出場を期待したい。



湘南サッカー部100年。 「特別協賛金」のお願い

是非
ご協力を!

14

2019年12月吉日

湘南サッカー部OB会 100周年記念事業 第二次協賛金募集について

湘南サッカー部OB会
会長 小泉 親昂

冠省

湘南高校の設立100周年(2021年)に際し、サッカー部OB会としても記念事業の準備をしております。この事業費として協賛金のご支援をOB・関係者の方々に昨年末よりお願いしておりましたが、残念ながら大幅に未達となっております。

つきましては、第二次の募集を実施することになりました。何卒、趣旨にご賛同いただき数多くの方々に協賛をお願いする次第です。

草々

記

(1) 記念事業費の総額 450万円(予定)

【内訳】

- ①100周年記念誌×2,000部 (配布先:湘南サッカー部OB、現役(10年先位まで)、関係者など)
- ②記念式典費用補助 (招待者・現役生など、約100名分の負担)
- ③記念グッズ (Tシャツを想定、今回協賛者や記念式典参加者への配布など)
- ④雑費 (記念誌・記念グッズの配布や連絡などの費用、他)

※上記450万円には、OB会100周年事業向け積立金(約200万円)を含む

(2) 募集要領

①募集対象: 湘南サッカー部OB・関係者(任意)

②募集期間: 2020年1月~7月(第二次募集)

③協賛金額(一口):

・一般:10,000円/一口 ・特別:50,000円/一口

④協賛金振込み口座:(OB会費口座とは違います。ご留意願います!)

横浜銀行 藤沢中央支店(店番号:618)

・口座番号 (普通) 6206726

・口座名 湘南高校サッカー部OB会 100周年事業

※OBの方は、お振込み人氏名の前に、卒業年次(回)を入れて下さい

(例)50回 湘南太郎 ⇒ 50カイ ショウナン タロウ

⑤会計報告:2021年度のOB会報にてご報告予定

尚、余剰金は本事業の決算後に、総てOB会の会計に組み入れます

⑥100周年事務局(会計担当): 沢田ミツル(50回生)

E-mail m-sawada_bmcl1956@jcom.zaq.ne.jp

Tel 090-1660-7461

【令和元年度 会計報告・予算案】

収入

	令和元年実績	令和2年予算
会費・寄付	1,606,000	1,370,000
前年度繰越	112,897	459,748
利子	1	0
計	1,718,898	1,829,748

※収入見込み 社会人 145名、学生 40名が納入 10,000×105名+ 5,000×40名+ 3,000×40名

支出

	令和元年実績	令和2年予算
現役寄付（付属戦補助含む）	500,000	500,000
蹴球祭	72,000	90,000
スペイン遠征補助（繰越金）	400,000	750,000
通信・事務費	95,990	100,000
印刷費	191,160	180,000
100周年積立へ	400,000	200,000
繰越金	59,748	予備費 9,748
計	1,718,898	1,829,748

●創部100周年記念事業に向け、予算面では、7年前より少しずつでもと内部留保に努めております。そのためにも、是非皆様の会費納入をよろしく願いたします。現在積立金は、¥2,000,531 - です。

また、100周年事業に関しては現在、幹事及び各世代代表と話し合い「記念誌」発行への作業を進めております。OB各位に資料など情報をお願いすることもございますので、ご協力よろしくお願い致します。イベントに関しては今後の課題ですが「実行委員会」をつくり検討していきます。こちらも各位のご協力をお願い致します。

現役寄付・会計報告 平成30年11月15日～令和元年11月10日

収入		支出	
前年度から繰越	0	遠征補助	12,000
寄付	500,000	トレーニング用品等	161,472
その他	0	筑波大附属定期戦	0
計	500,000	会場・試合等	94,928
		参加費等	25,000
		海外遠征関連	0
		ボール	131,600
		コーチ費用	75,000
繰越金	0	計	500,000

【2年度会費納入の件】

元年度は皆様の御協力ありがとうございました。本年もよろしく願いたします。社会人の方は、できましたら2口以上の寄付を願いたします。(振り込みには卒業年を入れてください)


- ・ 社会人 1口 5,000円
- ・ 学生 1口 3,000円

蹴球祭当日、受け付けを致しますが、御欠席の方は同封の用紙にてお振込み下さるようお願いいたします。なお、下記銀行口座も受け付けていますのでご利用下さい。

横浜銀行 本店 普通預金 口座番号 019166
 湘南高校サッカー一部OB会
 武藤俊一 TEL. 0466 - 34 - 9329

お問い合わせ・ご質問は

【ホームページアドレス】

湘南サッカー  で検索。

湘南サッカー一部OB会
<http://www.shonan-soccer.com>

【メールアドレス】

関 佳史 (事務局)
seki6644@yahoo.co.jp

武藤俊一 (事務局)
muto-s@jcom.home.ne.jp

横山雅行 (事務局)
m-yokoyama@heiwa-sangyo.co.jp

グラウンドに来て、旧交をあたためましょう。

[蹴球祭・総会のご案内]

期日：1月5日(日)

場所：湘南高校(グラウンド、清明会館)

関東大会予選のシード権の試合が、13日(月)行われます。
今後蹴球祭は、1月第一週または、第二週になる予定です。

09：30～10：50	若手紅白戦(現役参加予定)
11：00～12：00	総会 幹事会は9：30～11：00
*この時間にペガサスは練習できますが、OBは総会に出席してください	
12：15～12：30	現役交歓式
12：30～13：30	食事
13：30～15：30頃	原則40以上「OB+ペガサス交流戦」

※本部に会長、事務局、鈴木先生がいるようにしますので、必ず立ち寄って下さい。
※受付は総会終了後12：00から開設し、会費納入と引き換えに弁当を配布します。

